

許 可 番 号	倫-718
研 究 課 題 名	特発性好酸球増加症候群の診療ガイドライン作成に向けた疫学研究
診 療 科	血液内科
研 究 責 任 者	小池 道明
資 料 ・ 情 報 の 管 理 責 任 者	研究責任者：遠山和博 〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1 東京大学医学部附属病院 血液・腫瘍内科
研究の目的と方法	<p>【研究の目的】</p> <p>特発性好酸球増多症候群は血液で慢性的に好酸球が増加し、増加した好酸球の浸潤による様々な臓器障害を特徴としている病気です。慢性的に好酸球が増加する病気のこれまでの研究結果から、チロシンキナーゼという遺伝子の恒常的な活性化を起こす染色体転座（遺伝子の異常の一種）が原因となっている患者さんのグループや、腫瘍性好酸球増加が証明される慢性好酸球性白血球とよばれる患者さんのグループがいることが分かり、分類されてきております。しかし、上記に当てはまらないような慢性的な好酸球増加症例については特発性好酸球増多症候群として診断されますが、どのような症状や検査データ、治療反応性なのかについては未解明のままです。</p> <p>本研究は特発性好酸球増多症候群に診断される患者さんの情報を全国的に収集し、解析・分類を行うことで、我が国における診療実態を明らかにすることを目的としています。</p> <p>【研究の方法】</p> <p>まず全国の診療施設に質問票を送り、特発性好酸球増多症候群の診療実態の調査を行います。特発性好酸球増多症候群の診療を行ったことがあると回答が得られた医師から、各施設の倫理委員会の承認を得たのち、解析を行う施設に対して詳細な臨床的な情報を得るための調査票の送付が行われます。調査票の内容は、具体的な患者背景、家族歴、発症日、診断日、症状、浸潤臓器、合併症、血液検査所見、病理所見、染色体検査所見、これまでの治療内容と反応性、生存期間等が含まれます。この調査票の内容に個人を特定できるような内容は含まれません。調査票の送付は郵送もしくはパスワードのかか</p>
利用、又は提供する 試料・情報の項目	検査データ、診療記録
研 究 対 象 者	当院血液・腫瘍内科で特発性好酸球増多症候群と診断された患者さん。

研究対象期間	非介入等研究倫理委員会での承認後から2024年3月31日までを予定しております。
利用する者の範囲	研究機関 東京大学医学部附属病院 血液・腫瘍内科 研究責任者 遠山和博 血液・腫瘍内科 助教 担当業務 データ収集・匿名化・データ解析
個人情報の取扱いについて	使用するデータは、個人情報特定されないよう匿名化に十分配慮して扱います。 研究成果が公表される場合にも、患者さんが特定できるような情報が公表されることはありません。
お問い合わせ先	該当する研究の対象となる患者さんで、ご自身の情報を利用しないでほしい等のご要望がございましたら、大変お手数ですが下記のお問い合わせ先までご連絡ください。 順天堂大学医学部附属静岡病院 血液内科 電話：055-948-3111(代表) 研究責任者：小池 道明